

## 新潟市暮らしの点検・評価アドバイザー会議におけるご意見への対応等

事業名：潟に関する研究（担当：潟環境研究所）

No.	ご意見	対応等
1	中学2年生と小学5年生の全ての子どもにマップを配っているとのことだが、潟が身近にない地域の子どものにも歴史や環境を知ってもらいたいので、各区の教育支援センターと連携するなどして、教育機会を作ると良い。	潟の存在について、多くの子どもたちに認識してもらえよう今後も小・中学生に潟マップの配付を続けるなかで、潟に関する教育の機会の提供について教育委員会とも意見交換していきます。
2	総合学習のプログラムとして企画を用意し、提案すると良い。	潟に関する情報や研究成果を発信するとともに、実際に総合学習で取り組んだ事例なども紹介していきます。
3	新潟市に住み続けてもらうためにも、郷土の良いところを知ることが大事。例えば、遠足で一度は歩いて潟に行ってみることを常識にしてみてもどうか。地域の人が、行って見て聞いて体験することを大切にしてほしい。	市内だけでなく市民団体等が行う行事やイベントなどについての情報も可能な限り発信し、多くの方が潟を訪れていただけるようにしていきます。
4	研究所の存在が市民から知られていないと思う。広報を工夫する必要がある。	市内内外の関係者と連携を図りながら、潟環境研究所の存在を多くの方々知っていただけるよう、さらに工夫に努めます。
5	鳥屋野潟、福島潟、佐潟は一般的に知られていると考えるが、その他の「潟」の存在を、市民の多くは知らないと思う。機会あるごとに広報したらどうか。	鳥屋野潟、福島潟、佐潟以外の潟についても、広報紙やホームページなどの活用やシンポジウムの開催など、様々な機会でご案内していきます。
6	潟の周辺環境を良くするために、他の部署も連携した総合的な対応が望ましい。	潟環境研究所では市内内外関係者による定例会議を開催し、情報を共有しながら連携を進めているので、今後も継続し総合的な対応に努めます。

## ■その他のご意見

- ・フェイスブックによる広報もやっているが、効果的な拡散のために、県内外の様々なグループやアプリケーションを活用する手段がある。
- ・各区の既存の資料館や潟周辺の施設に、研究所のパネル展示をするなど低予算でできる広報もあると思う。
- ・記録DVDに関しては、潟に限らず郷土の特色を語り継いでいく必要がある。
- ・「こどもから大人までが、潟の魅力や価値を知り、潟に親しみ、誇りを持って市民活動に関わる」という事業目的をあげているが、小規模な組織で、ニュースレターの内容なども専門的で、この目的を達成できるとは思えない。
- ・NPO法人や民間団体が、地域の潟に親しむ活動を展開しているので、協力しながら活動を広げていくと良いと思う。